水遊びに興ずる子どもたちだつた。

夏休み

不可能に挑戦を

本所指導部　平田　千佐子

ある時は、不可能といわれていたことが、可能になった日があった。

ところが今は……可能であることさえ、不可能だとして押し流されている。

こんな環境の中で生活している私共は、どうあるべきなのか。

足もとをしっかりふまえ、じっくりと考えるべきではなかろうか。でも現実は、何かにせまられたように、むつかしい問題に立ち向っている感がしてならない。

組合員にせよ、また主婦会員にせよ、全体が燃えているときは何でともなくてすむが、助け合いを基調とするべき運動のなかで、同志愛を忘れ、相手と暖く見つめ合うことを忘れては、運動もどこへやら。

組織の原点とは、いったい何だったのか。もう一度そこをふり返って見るべきときがきているのではなかろうか。今、つくづく思っている。

×

この欄に、主婦の皆さんから毎号欠かさずご投稿いただき、ありがとうございます。もっともっと、いろんなことをお寄せくださることを、心から期待しております。どうぞよろしく。　編集部

八番娼館に感動

（母親大会に参加して）

港務指導部　池田　スミ

母親大会の模様

「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」、のスローガンのもと、私達は、暮らしと生命と平和を守るため、本年も八月二十二日午後五時大牟田市労働福祉会館に結集、平和と人間尊重を考える記念映画を鑑賞しました。

軍国主義政府が富国強兵策により、軍艦やそのほかの兵器をつくるため、かって私達労働者は犠牲を強いられ、特に私達女性は奴隷のようにしいたげられた社会で、血のにじむ思いでただただ働き続けたのでした。過ぎし日の、歴史上の出来事や物語りだとして、簡単にかたづけられる問題じゃないのではないでしょうか。

とかく、「わかってはいるけれど……」、などとごまかす女性特有の諦らめが一般的で、そこを資本家や支配層にうまく利用されては、泣くことになるのではないでしょうか。そう思われてなりません。

今日、有事立法の問題が大きく論じられ、あのいまわしい軍国主義の復活が際立ってきましたが、絶対に許すことはできません。

映画は、働いて得たお金を、故郷の兄に仕送りを続けてきながら、その兄からさえ裏切られる当時の女性の姿を、描いて見せました。反動的社会の性格を象徴するエピソードでしたが、私は、わが娘にあのような仕打ちをさせずによかった思いながら、映画〝サンダーカン八番娼館〟のもつ意義を、ひとりでも多く、次の世代を継ぐ人びとに語りつぎたい、と思いペンを執りました。

レクレーション のこと

小学二年　片山　修

八月二十三日、ぼくたちは、みいけのおばちゃんたちと、おごうりのレクレーションセンターにいきました。

バスの中でじこしょうかいがありましたが、かきたくなかったのでかきませんでした。

かいものクイズもありました。ぼくは、スーパーマンのおかしがあたりました。でも、すくなくてちっともおもしろくなかったです。

ついてからドッチボールがありましたが、かたらなかったです。

昼からプールにはいりました。おとなようのプールにはいりました。せがとどかなかったので、はじめはこわかったですが、だんだんなれてきましたので、たのしくおよぎました。

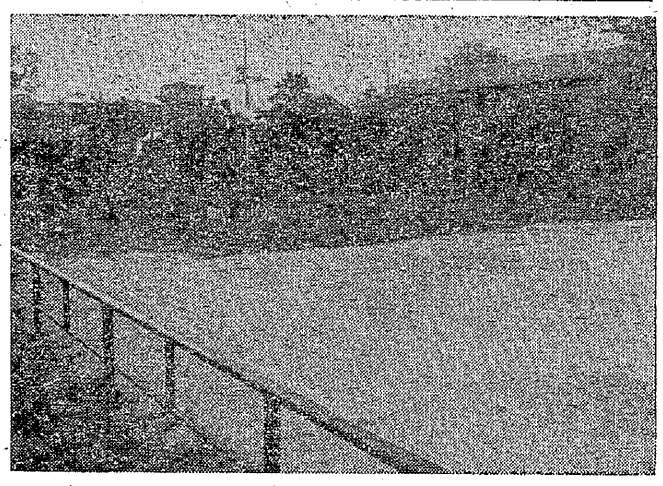
またいきたいとおもいます。

×

なお三池主婦会主催の児童レクレーション（夏季児童対策）は、八月二十三日、日帰りで、県下の小郡市の簡易保険レクレーションセンターで催され、親子六十四人が参加。なごやかな一日を過ごした。

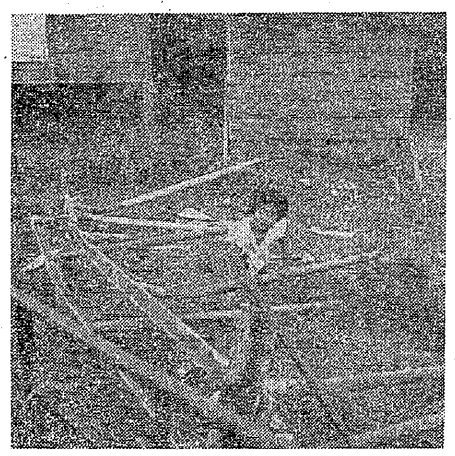
婦団連が八・一五のつどい

連合通信の記事によると、終戦記念日の八月十五日、「子どもたちに平和と安全な未来を」と、婦団連（櫛田ふき会長）は〝八・一五反戦・平和のつどい〟を、東京・渋谷の生協会館で開きました。約三百人が参加したとのことです。



〝奪われた遊園地〟

子供の唯一の楽しみなのに



写真上はできたゲートボール場下は棄てられた鉄棒の残骸。

「お父さん、遊び場の鉄棒がないよ」

「え、鉄棒がない？」

浴場前の遊園地に見にいったところ、本当に鉄棒がなくなっているんです。近所の人たちに聞くと、大人のゲートボールをするのに、会社がわざわざ地ならしをして、ゲートボールができるように造り変えたのだそうです。

私は、腹が立ちました。見ると子供たちの遊園地には雑草が生え、空になったビンの類が放置され、危くてならないのです。

私たちの福利厚生に関する要求に対し、会社は「予算がありません」といったり、逆に社宅の家賃を引き上げたり、赤字だ、不況だといいながら、われわれに安い石炭を掘らせたり、あげくには子供から遊園地を奪ったりしていますが、そんなことよりゲートボール場がたいせつなのか。

私は思います、社宅の遊園地は子供たちの唯一の楽しみではないのかと。

×

緑ケ丘の桧町からのレポート。

ながつき　九月の暦

1日　二百十日。防災の日。大正十二年のこの日、関東大震災起きる。

6日　旧盆。

8日　白露（ばくろ。二十四気のひとつ）。

13日　世界法の日。

15日　敬老の日。（東京で高齢者大集会）この日特定休日。

20日　航空の日。

21日　彼岸入り。動物愛護週間。

24日　秋分の日（この日からしだいに昼は短く、夜が長くなっていきます）。この日から結核予防週間。

27日　彼岸明け。

×

▼…気象庁の長期予報によると西日本は暑さが残り、雨は少く、中部日本以北では涼しい日が多くなり、北日本の秋の訪れは例年より早くなりそう、と。

また、本州南岸には一時前線が停滞し、東日本では秋雨が降りやすい時期もありそうだと。（以上は連合通信から）

なお三池炭鉱労働者にとっては秋季闘争から年末闘争へと続く闘いがあるばかりでなく、平和協定破棄をめざす重大な闘いのヤマ場を迎えます。十分な健康管理をしながら、がんばりましょう。

短歌

熱帯夜

三川指導部　町　佳郎

十首程と乞われて選ぶ歌の中に吾子（あこ）を詠みしも忘れず入れぬ

暑き夜に布団の上を転げまわり小一時間程に子は眠りつきたり

夏休みも半ば過ぎたり日ごと幾度子らのいさかいも日課となりつ

樫の木の樹液吸いつつかなぶんの群がりてひと日動かざりけり

扇風機のおやすみなく廻る熱帯夜ねぐるしきまに夜の更ちゆく

ひまひまに描きし絵のいくつ見せんとぞ吾を伴える初老の教師

個展など開きしという絵を前に余技とは思えず眼を凝らしたり

胸深く思うこともあり転居（うつり）きてみとせ過ぎたる庭垣の花

夕立ちの上りたる道に一斉に樹々の間（あわい）ゆ蟬鳴き出でぬ

ひそかにも季節（とき）移りゆくらしむし暑き夜をしきり鳴く虫の声する